

平成二十九年四月の作品（四月一四日（金））（第五〇回）

（文京シビックセンター5階D会議室）

（三宝庵にて五〇回記念の祝賀会）

癒えて今歩ける友や二輪草（一江）

瀧の如く川になだるる桜かな（芙紗）

花堤昔を今に常夜灯（清助）

木もれ日や一人静の群れて咲き（隆治）

箱根路の車窓を飾る桃の花（太郎）

皇后の会釈を受けて花の門（孝昭）

春灯しゅんとうや開かぬ母の古箏こそう（前歩）

風光る若き社員の靴の音（貴美）

村人の葬はなりの列や花の下（平六）

花林檎はなご帰りし我を出迎へり（正雄）

西行の想ひわが身に桜かな（正佳）

夕暮れの薄くかすめる桜かな（奉男）